

楯岡文蔵

たておか・ぶんぞう

誠之館教師、福山教育義会幹事

経歴

生:弘化4年(1847年)

没:明治の後年、定福寺に葬る

—	—	藩校誠之館で漢学、英学修業
—	—	長兄とともに脱藩二十五人組のひとり
—	—	箱館戦争に従軍
明治7年(1874年)	27歳	深津小学校で漢学を教授
明治8年(1875年)	28歳	広島師範学校卒業
明治8年(1875年)7月11日	28歳	小田県師範学校訓導
明治9年(1876年)7月12日	29歳	広島県公立師範学校(福山)分校教員
明治12年(1879年)7月10日	32歳	広島県福山中学校画学担当教員
明治14年(1881年)11月25日	34歳	広島県福山中学校三等教師
明治15年(1882年)9月～10月	35歳	広島師範学校において体操を伝習される(1ヶ月)
明治16年(1883年)12月13日	36歳	広島県福山中学校教師を辞任、つづいて体操科教師嘱託
—	—	学務掛
—	—	安那高等小学校校長
—	—	郡役所書記
明治19年(1886年)	39歳	福山教育義会幹事・評議員

生い立ちと学業、業績

弘化4年(1847年)生まれ。楯岡瘡竹の三男。長兄とともに脱藩二十五人組のひとり。長兄は楯岡斧蔵、次兄は楯岡先(たておか・すすむ)。

箱館戦争に従軍、その時は石崎慶吾を名乗る。

はじめ囊町に住み、のち下市口に住んだ。

広島官立師範学校に入り、全科を卒業した。

同年に五十川左武郎(訊堂)らとともに、開設されたばかりの小田県師範学校訓導となる。

小田県師範学校は岡山県師範学校になったが、それも廃校になる。

その後、広島県公立師範学校(福山)分校が開設されると、その教員となった。

明治12年(1879年)には、その師範学校も廃止となった。

そうした状況下で、広島県福山中学校が創立され、文蔵は画学担当の教員となった(月18円)。

他の教員は、門田重長(漢学担当)と江間平一(数学担当)で、事務掛は草河保男であった。こうして福山における明治初期の教育界の中心的役割を果たした。

その後、郡役所に入り、後年は、福山教育義会の幹事・評議員をつとめ、明治中期から後期にかけての福山中学校(誠之館)の存続に大いなる貢献をした。

明治の晩年に没、西町の定福寺に葬る。

長男楯岡精一は、中尉で戦死。次男石崎良二は中国で活躍したという。 (出典1~4)

誠之館所蔵品

管理No.	氏名	名称	制作	日付
07148	佐々木龍三郎 著	『ぎんぎんざらざら夕日が沈む 童謡詩人 葛原しげるの生涯』	文芸社	平成26年

出典1:『すい松館 深津小学校百二十周年記念史』、深津小学校百二十周年記念誌編集委員会編、深津小学校百二十周年記念誌出版委員会刊、平成7年3月1日

出典2:『誠之館百三十年史(上巻)』、268・269・270・281・300・306・329・348・467・475・554頁、福山誠之館同窓会編刊、昭和63年12月1日

出典3:『近世後期の福山藩の学問と文芸』、86頁、福山市立福山城博物館編刊、1996年4月6日

出典4:『郷賢録』、25頁、福田禄太郎著、福山城博物館友の会編刊、平成12年10月1日

2008年2月22日追加●2014年10月30日更新:誠之館所蔵品●